

1 自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	4151080043		
法人名	医療法人 源勇会		
事業所名	グループホームかえで		
所在地	佐賀県佐賀市川副町大字早津江263番地		
自己評価作成日	平成27年9月28日	評価結果市町村受理日	平成28年2月1日

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先	http://www.kaigokensaku.jp/
----------	---

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	公益社団法人 佐賀県社会福祉士会		
所在地	佐賀県佐賀市八戸溝一丁目15番3号		
訪問調査日	平成27年10月21日		

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

<p>・併設の医療機関が敷地内にあり、病気の早期発見や緊急時の対応がスムーズにできる。 ・入居者一人一人の、健康状態やおかれている生活環境について、午前、午後の二回申し送りを行い、情報の共有とケア方法の確認、意見交換やケア方法の検討を行い、安心して暮らして頂けるよう努めている。 ・入居者一人一人の「出来る事」を活かした家事活動や、運動(歩こう会参加)、「苦手な事」へも工夫を行い、個々の状態に応じた「自立した生活」への支援に努めている。</p>

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

<p>田園地帯に位置し、車ですぐの所にスーパーや薬局、衣料店などがあり利便性に優れている。季節の花々を楽しめる広い中庭があり、明るくゆったりできる平屋の2ユニットのホームである。各入居者の能力や希望に沿った支援を心掛け、いきいきと楽しく生活できるよう支援をしている。家族にお便りや写真を送ったり、地元の知り合いとの関係継続に努めている。母体病院が敷地内にあり、緊急時など医療面での安心感がある。また、毎月、各職員がテーマに沿った勉強会を行い、職員の質の向上にも努めている。</p>
--

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1~55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印		項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印	
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	○	1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらいの 3. 利用者の1/3くらいの 4. ほとんど掴んでいない	63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)	○	1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
57	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	○	1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	○	1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	○	1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くいない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66	職員は、活き活きと働けている (参考項目:11,12)	○	1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
62	利用者は、その時々々の状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている (参考項目:28)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない				

自己評価および外部評価結果

[セル内の改行は、(Altキー) + (Enterキー)です。]

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
I. 理念に基づく運営					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	五つの理念を週ごとに、朝礼時に復唱し、介護の実践を目指している。	分かりやすく具体的な内容の理念を、ホーム内に掲示している。また、5つの理念を各週ごとに1項目づつ唱和し、意識付けるように努めている。しかし、就職時に理念について説明したり、その後、振り返る機会が少ない。	良い理念を更に生かすために、理念について意見交換を行ったり、振り返る機会づくりに期待したい。
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	買物へは地域の店を利用し、買い物客や知人との交流を図れるよう支援している。地域の祭りに参加し、交流行っている。	近隣のスーパーに買物へ出掛けた時等に、地域の方や知人と交流をしている。また、母体病院に受診した際など、知人と会話を楽しんでいる。地域のお祭りや、法人の夏祭りでも地域の方と交流している。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	面会やボランティアに来られた際には、ホームでの取り組みについて、伝えるようにはしている。		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	会議で得た意見については、検討を行いサービス向上に活かしている。	2ヶ月に1回、定期的を開催している。民生委員、地域包括支援センター、家族が参加し、ホームの支援状況などの報告があり、意見については検討しサービスに活かしている。また、行事時に会議を開催し、一緒に参加され、より理解を深めて頂けるよう努めている。	
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くよう取り組んでいる	おたっしや本舗さんや民生委員の方に、運営推進会議を通して、情報交換を行っている。	地域包括支援センターや市の担当者とは、適時、相談し合える良好な関係である。民生委員からは、地域の行事などの情報提供があり、支援活動に活かしている。	
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者及び全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	勉強会を開催し、職員全体への周知を図り、取り組んでいる。玄関は手動での開閉にし、報知音にて対応行い、ご家族にも協力求めている。	拘束に関して勉強会を年1回行っている。また、外部研修に参加した際には伝達研修を行い、意識向上に努めている。現在、身体的な拘束は行っていない。言葉の拘束についても、日々の言葉かけに注意を払い、身体拘束をしないケアの実践に努めている。	
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	勉強会を開催し、日々の介護を振り返り、意見交換を行い、職員全体の共通理解のもとに、取り組んでいる。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	勉強会を開催し、学ぶ機会を得ている。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	契約の際には、不安や疑問点などについて十分な説明を行い、理解・納得されるよう努めている。		
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	ホーム内に、意見箱に設置を行っている。介護に関する意見・要望についてはその度検討を行い、対応可能なものについては反映されている。	家族からは面会時に、ホームに対する要望や意見を聞き、職員で検討し、日頃の支援に活かしている。また、家族が何でも言いやすい雰囲気作りにも努めている。	
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	勉強会を開催し、業務についてや、運営についての意見・提案を聞く機会を設けている。実行可能なものに関しては、検討を行い、反映されている。	勉強会時に、日頃の業務について職員の意見や提案を聞き、運営に活かすよう努めている。また、意見が少ない職員には、管理者が個別で意見を聞くなど工夫している。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	各個人の能力や就業条件に応じて、環境の整備行われている。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	全スタッフが適合する研修に参加出来ている。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	研修会の参加時や、町内のネットワークに参加し交流の機会を設け、情報交換など行っている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
Ⅱ.安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	家族から得た情報を基に、関係づくりに努め、困りごと、不安、要望などを察知し職員間での共有を行い、安心した暮らしとなるよう関係づくりに努めている。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	生活を通じて、困りごと、不安な事を察知できるように、職員は情報交換と共有を行い、安心して暮らせるよう要望などに耳を傾け安心できるように対応を行い、関係づくりに努めている。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	入居に際して、ホームの暮らしでの心配事や要望についてはその都度対応行っていくことを伝え、暮らしを見守り、支えていくよう努めている。		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	日々の関わり合いの中で、互いに協力し支え合えるよう、尊敬の気持ちを忘れずに接し、感謝の気持ちを伝えるように努めている。		
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	本人・家族との関係を理解し、本人の暮らしがより良いものとなるよう、要望に耳を傾け、検討やアドバイスを行っていただける様関係づくりに努めている。		
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	家族から、馴染みの場所や、人などの情報を得たり、通所サービスを利用していた日に面会に行ったり、外出時に立ち寄り等で関係の継続が出来る様努めている。	外出時に自宅の近くを通ったり、馴染みの場所に出掛けたりしている。また、知人が面会に来られたり、ディサービスを利用している知人に会いに行くなど、関係継続の支援に努めている。	
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	個々の人柄を理解したうえで、利用者同士が関わり合えるよう、席の配置などにも気を配っている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	本人・家族の状況にそれぞれ理解を示し、必要に応じて、相談を受けたり、フォローを行っている。		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	関わりの中から本人の思いをくみ取るように努め、検討・実践し思いが優先されるよう心掛けている。	日常の会話の中から希望や意向を把握し、支援に活かしている。把握が困難な場合は、家族から情報を得たり、自分の親だと思ふ視点で、本人本位の意向を検討している。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	入居前のアセスメントでは、家族や本人から出来るだけ詳しく聞き取りを行い、本人らしい暮らしが出来る様努めている。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	午前・午後と申し送りを実施し、一人一人の心身状態の把握に努めている。変化があれば、必要に応じてかかりつけ医への報告や相談を行い、受診等へ繋がっている。		
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	カンファレンス開催前に、全スタッフを対象に意見票への記入を行い、現状の課題や今後予測される問題についての意見、アイデアをもとに検討を行い、本人のより良い暮らしとなる介護計画の作成に努めている。	家族の意向や主治医の意見を踏まえ、全スタッフに各入居者の課題について意見を聞き、それらを基に介護計画を作成している。また、介護計画に基づいた介護を実践しているか日々記録し、モニタリングに利用している。	
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	日々の気付きは個別記録に記入し、朝・昼等の申し送りで情報の共有を行い、実践し、カンファレンス等で検討を行い、介護計画の見直しなどに活かされている。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	本人の心身の状況に応じて、家族と共に最善と思える対応を検討し、柔軟な対応を心掛けている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	ボランティアに行事参加を呼び掛け、交流の場を設けている。隣接する施設の行事やデイの作品展等を見学し、暮らしを楽しむ事が出来る様支援行っている。		
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	受診に際しては、家族・本人の希望を優先した医療を受けられるように支援行っている。医師とは24時間連絡が可能なお状態である。	母体病院がかかりつけ医の入居者が多いが、それ以外でも継続的な受診が可能となっている。他科受診は、家族や職員が付き添い、情報提供をしている。必要に応じて訪問歯科も利用可能である。	
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	入居者の様子や情報のついては、午後にも申し継ぎを行い、日々の様子と異なる状態については、速やかに医師・看護師へ報告し受診につながるよう支援行っている。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	かかりつけ医とは、密に連絡をとれる体制があり、他の医療機関とも連絡を取り合わせ、情報の共有の努めている。		
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所のできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	契約の際に、説明は行っている。面会時に健康状態や生活状況等についてお知らせを行い、今後の対応や家族の意向について確認し、かかりつけ医と共に取り組んでいる。	看取りについての方針を作成し、契約時に説明をして同意を得ている。数件の看取りを行ったが、その都度、主治医から家族に対し説明を行い、意向を確認しながら支援をしている。年1回、ターミナルについて勉強会を行っている。	
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	異変に気が付いたら、速やかにかかりつけ医に報告行う体制をとっている。法人内での救急の研修会に参加しAEDの使用法の訓練を受けている。		
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	定期的な訓練の他に自主訓練を行い、避難の経路確認行っている。地域のネットワークへ参加し、駆けつけ訓練などに参加している。	年2回、消防署立ち会いの火災訓練を行ない、法人間での協力体制ができている。また、ホーム独自でも定期的に避難訓練を実施している。地域の災害ネットワークへの訓練参加などを行っているが、近隣住民との連携は不十分な状況にある。	現在、民生委員を通じて自治会への働きかけを検討中とのことで、今後の体制づくりに期待したい。

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	(14)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	接遇の勉強会を開催し、日頃の言葉づかいについて振り返る機会を得ている。家族の了解のもと、「○○さん」と名前で対応している例もある。	法人全体やホーム内での勉強会を行い、接遇の向上に努めている。日頃の言葉かけに関しては、お互いに注意できるような関係作りを心掛けている。また、入浴時や排泄時のプライバシーにも配慮をしている。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	活動時に本人が自己決定出来る様な声掛けや場面づくりを通して働きかけている。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	活動への参加は強制はしておらず、入居者の体調に応じて対応行っている。入居者の気持ちを最優先している。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	外出時・入浴時等衣類を自分で選んで頂けるよう声掛け支援行っている。月に一回訪問美容サービスを利用し、その人らしいおしゃれ出来る様支援している。		
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	個人の出来る工程を、職員は把握し、配膳や片づけを出来る様支援している。	各人の能力に合った食事の準備や、後片付けが行えるように支援をしている。季節毎の行事食や、おやつ作りなどの楽しみがある。また、誕生日には、外食したり、ホーム内で希望に沿ったメニューを提供している。	
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	食事量は摂取表にて確認し、形態や量、提供の時間や回数を検討し、個人に合わせた対応を行っている。水分は食事の他に10時・3時にもすすめ、こまめな摂取を薦めている		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	毎食後の口腔ケアは、全員に対しては行っていない。個人の状態に応じた歯磨きの声掛けや介助行っている。自ら出来る方には声掛け程度に努めている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	チェック表を使用し、量・回数などを確認し誘導や声掛けに活用している。排泄用品は、家族と相談し決めている。ポータブルトイレの高さ調節、バケツを置くなど自立に向けた取り組みを行っている。	排泄チェック表を利用することで、タイミングを把握して対応し、日中はほぼ全員がトイレで排泄をしている。また、汚物入れのバケツを専用にししたり、2部屋に1つのトイレを設置し、排泄の自立に向けた工夫をしている。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	医師に相談を行い、薬を併用し、腹部マッサージや水分摂取・散歩等の運動を取り入れている。家族の協力を得て、乳製品を定期的に購入するなど、個々に応じて取り組んでいる。		
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めず、個々にそった支援をしている	本人のタイミングに合わせて声掛けや案内を工夫し、ゆっくり入って頂けるよう心掛けている。曜日の設定は行っているが、面会や外出等に応じて、曜日の変更を行うなど柔軟に対応している。	週2～3回の入浴支援を行っているが、希望や状況により臨機応変に対応している。拒否される方には、声掛けの工夫をしたり、職員同士で連携しながら、快く入浴できるように支援している。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	一人一人に合わせた対応を行っている。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	薬の情報提供書にて、服薬内容を確認し理解に努めている。薬局とも連絡が取りやすい環境にあり、相談しやすい。内服時の様子を医師に伝え、内服薬の形態変更も行っている。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	調理・洗濯物運び、タオル干しなど生活の中で、一人一人の様子に応じた役割に取り組んで頂いている。買物・外食・ドライブ(季節の花見)などで気分転換が行えるように支援している。		
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるよう支援している	入居者の希望通りにはいかないが、敷地内の散歩等支援に努めている。買物やドライブ等も定期的実施している。誕生月には、ご家族の協力を得て、自宅に立ち寄りたりが出来ている。	近隣への買物やドライブなど、日常的な外出支援をしている。花見やこいのぼり、夜間のイルミネーション見学など季節に応じた外出や、誕生月には希望に沿った外出支援を行っている。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	所持金の金額については、少額でお願いしている。家族に紛失については十分説明し了解を得ている。買物の際には、利用者自身が支払いが出来る様に支援行っている。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	御家族の協力にて、FAXや郵便での交流も行われている。		
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	廊下や食堂からは、中庭を見る事ができ、四季折々の花を楽しむ事ができ、季節を感じる事が出来る。玄関や廊下には、季節に応じた作品の掲示を行っている。	窓が大きく廊下や食堂など明るく、風通しも良い。広い中庭では、桜など四季折々の花を楽しむことができる。清掃も行き届き、湿度や温度にも配慮している。西日対策でロールカーテンを設置したり、スタッフの足音に配慮する等、環境作りに努めている。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	共用スペースには、可動式の畳を設置し休息や談話ができるよう工夫している。廊下にもベンチがあり、散歩中の休息や中庭の鑑賞などに利用されている。		
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かし、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	家具は使い慣れたものを持ちこんで頂いたり、配置も家族・本人と相談し心地よい空間づくりに努めている。	各居室は明るく、写真や生け花等が飾られ、落ち着いた雰囲気である。自宅から仏壇やタンス等を持ち込むことができ、居心地の良い居室作りに努めている。また、ベッドや家具は使いやすいように設置している。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	自室よりトイレまでの道順などを貼り紙する等の工夫を行っている。		